

50015 道徳教育の研究 a Studies in Moral Teaching		2 年次～ 後期 2 単位	
担当者	結城 敏也	履修可能学科	E C W F
		関連資格	教職必 (E・C・W・F)
サブタイトル	道徳をどう教えるか		
授業内容 ねらい	道徳とは何だろうか？生きていく上で「道徳」は何故必要なのだろう。なぜ学校で道徳を教えるのだろうか？社会のありかたによっては、「道徳」を教えるのは学校の役割ではない。しかしながら近代社会においては、社会が正常に存続するためには、市民に「道徳」を教え、道徳的規範意識を持たせることが不可欠になっている。市民の大多数が度徳的失ったとき、その社会は劣化し、衰亡する。 現在の日本の社会状況においては、道徳的規範を知識としては持つものの、規範に従わないことをよしとする風潮があることは否定できない。このような状況では、学校教育ないでの道徳教育の重要性が喧伝されるようになってきている。このような状況で、道徳を教えることを求められる教師には多くの責務が負わされることになる。 そこで、道徳を教えるとは何かについて考察してみたいと思う。また、「道徳」について考えることなく「道徳」を学生に教えるてしまうことになると、それは洗脳教育と変わらない事態に陥ってしまう危険性もあわせて考察したい。		
授業計画	1. 道徳とは何か？概括 2. 社会的存在としての人間と道徳 3. 「道徳を知ること」と「道徳的であること」 4. 宗教教育と道徳教育の関連性 5. イデオロギーの支配性 6. 道徳的判断主体としての人間 7. 道徳を教えること-幼児教育の重要性 8. 道徳教育の隘路-身体性の忘却 9. 学校教育と道徳教育 国民国家の発生と学校における道徳教育 10. 道徳教育と思想教育（教育と洗脳） 11. 何故「修身」ではなく「道徳」なのか 12. 大日本帝国憲法下における「修身」教育の問題点 13. 道徳を教える「教師」に必要な品位について 14. 道徳教育の課題 15. 総括		
教科書 参考書	資料は配付、あるいはICUNIPAに揭示 参) 和辻哲郎『人間の学としての倫理学』、エーリッヒ・フロム 『自由からの逃走』、プラトン『国家』、カント『実践理性批判』、ルソー『社会契約論』『人間不平等起源論』、デューイ『民主主義と教育』、中内敏夫『軍国美談と教科書』（岩波新書）、岩本努『『御真影』に殉じた教師たち』（大月書店）、山中恒『ボクラ小国民』（G2境社）他		
評価方法	講義中に提示するレポートの提出、期末試験		
事前準備学習 履修条件等	基本的に30分以上の遅刻は欠席とみなす。		